

科目名	研究指導（修論指導）2		
開講学期	2年次秋学期		
教員氏名（カナ）	全教員 田中辰雄、浮田善文、友岡賛、原郁代、平井友行、 松嶋智子、諸上詩帆、柳田義継、 渋瀬雅彦、永野智久		
単位数	2		
授業実施方法	対面講義＋オンライン		
教育の実務経験の有無	無	ノートPCの利用	毎回の授業で使用
実務経験	該当なし		
キーワード	商学、マーケティング、データサイエンス	アクティブラーニングの実施	有
授業の目的と概要	<p>本講義では修士論文を完成させる。秋学期は修士論文素案にそってデータ収集と分析を行い、修士論文を執筆する。データ収集に伴って分析モデルが変更されることがありうるので、進捗状況に注意する。提出前に必ず第一次原稿を提出することとし、そのうえで完成度をたかめていく</p> <p>①.田中辰雄（統計分析の指導を担当） ②.浮田善文（AIと情報処理を担当） 3.友岡 賛（会計理論の講義を担当） 4.原 郁代（会計実務の指導を担当） 5.平井友行（経営戦略論を担当） 6.松嶋智子（情報セキュリティを担当） 7.諸上詩帆（企業組織論を担当） 8.柳田義継（プログラミングをマーケティングを担当） 10.渋瀬雅彦（経営とマーケティングを担当） 11.永野智久（スポーツマネジメントを担当）</p>		
到達目標	1	中間報告用の原稿を作成する	
	A+	中間報告用の原稿を作成し、それが修士論文本体に近い	
	A	中間報告用の原稿を作成する	
	B	中間報告用の原稿を部分的に作成する	
	C	中間報告用の原稿のメモだけができる	
	F	中間報告用の原稿を作成できない	
	2	修士論文を完成させる	
	A+	修士論文を完成させ、極めて優秀な出来である	
	A	修士論文を完成させる	
	B	修士論文をほぼ完成させる	
	C	修士論文を一部を残して完成させる	
	F	修士論文が完成しない	
	3		
	A+		
	A		
	B		
	C		
	F		
	4		
	A+		
A			
B			
C			
F			

	5	
	A+	
	A	
	B	
	C	
	F	
履修上の注意		
教科書・教材		
基本方針	学生の関心に沿って教員から提示する	
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社
必須	完成に向けて追加論文を指示する	出版年月
推薦		備考
参考文献		
ディプロマポリシーに掲げる能力と授業の対応		
ディプロマポリシー（大分類）		対応
D1	社会・企業・組織が持つ経営上の課題、社会的課題を見出す能力	
D2	課題解決に役立つデータサイエンスに関する汎用的な知識とスキル	
D3	(1) の能力を起点に (2) を重ね合わせ、社会・企業・組織が持つ経営上の課題、社会的課題を具体的に解決し得る方策を導き出す能力・スキル	◎
D4	(3) で得られたソリューション（解決策）を社会等に訴求すべく具体的に働きかけるコミュニケーション力と行動力を備えたスキル	◎
D5	データ社会において (1) ~ (4) の一連のプロセスで発生し得る倫理上の課題を適切に認識する能力を備えたスキル	○
成績評価方法	修士論文の完成稿の作成(100%)	
試験・レポート等に対するフィードバック		
授業時間外の事前事後学修		
	内容	学習時間
事前学習	指導教員の指示をうけて修士論文の執筆、修正、改善を行う	10 h
事後学修	指導教員の指示をうけて修士論文の執筆、修正、改善を行う	10 h
授業計画		
1	修士論文素案確認、執筆計画の策定	
2	修士論文進捗報告 1	
3	修士論文進捗報告 2	
4	修士論文進捗報告 3	
5	修士論文進捗報告 4	
6	修士論文中間報告時のコメントの検討と今後の方針の決定	
7	修士論文執筆報告 1	
8	修士論文執筆報告 2	
9	修士論文執筆報告 3	
10	修士論文執筆報告 4	
11	修士論文中間報告（2回目）のコメントの検討と今後の方針の決定	
12	修士論文完成稿作成 1	
13	修士論文完成稿作成 2	
14	修士論文最終確認	
SDGsとの関連性		
8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基礎をつくろう		